

## 創立二十周年記念大会記事

昭和三十一年に呱呱の声をあげた本会も二十歳の成人となり、これを記念する大会が東奥日報社の後援をえて、昭和五十一年十月三日東奥日報社弘前支社ホールを会場として開催された。記念大会ということで総会後に記念写真の撮影も行われ、またプログラムに「弘前大学国史研究会二十年の歩み」と題する年譜も特集された。「会員名簿」も久し振りに新版が発行された。なお、兼ねて計画中の「津軽史事典（名著出版社刊）も創立二十周年記念出版として昭和五十二年四月には刊行される予定である。

二十年の歩みを顧みて一層の発展を期すべく、会員諸賢のご研鑽とご協力を期待するものである、以下に大会の概要を報告する。

### ◇ 研究発表会

研究発表は多くの申込者があったが、次の五氏にお願いした。時

間の制約があり、発表者に僅か十五分ずつという枠をはめたことをお詫びしたい。

①「安藤昌益について」稲葉克夫氏（県立浪岡高校教諭）②「南部信直書状の研究」小笠原二郎氏（青森市文化財審議委員）③「弘前藩政確立期の一考察——貞享検地の分析」工藤陸男氏（弘前大学教育学部講師）④「近世武士婚姻法——八戸藩」工藤祐董氏（八戸工業高等専門学校教授）⑤「明治期勸業政策の起点」小岩信竹氏（弘前大学人文学部助教授）。

発表内容は省略するが、工藤祐董氏は一部を発表された研究を「八戸藩武士家族法」として本号に寄せられた。また、稲葉克夫氏の発表の論点の一つを詳論したのが本号所載の「安藤昌益と橋本律蔵」である。

なお、小笠原二郎氏は、県立図書館資料課長在任中に接せられた南部信直の書状四十二通を整理分析された結果を発表されたが、本会での発表の後間もなく十一月二十七日に逝去された。謹んで哀悼の意を表する次第である。

### ◇ 総 会

総会は、会長の挨拶に続いて、稲葉委員を議長として議事が進められ、荒井委員からの庶務報告・会計報告は満場一致で承認された。会則審議では、事務局から第九条の会費年額「三〇〇円」を昭和五十二年（暦年）から「五〇〇円」とする案および「学生・会員はこれを免除する」を「学部・学生・会員はこれを免除する」と改正する案の二つが提案され、承認された。役員改選は、会長・副会長を留任と

し、委員・監事は慣例によって後日会長から委嘱することとなった。

◇ 公開講演会

午後は、一般市民の来聴もえて公開講演会が行われた。本会顧問  
・岡山大学教授宮崎道生氏の「北奥精神史の一齣——棟方志功試論」と、愛知学院大学教授森克己氏の「知られざる満州事変」の二つの講演があつて、聴衆の耳を傾けさせた。なお、宮崎教授の講演の内容は、近刊予定の「青森県の歴史と文化」(津軽書房刊)に詳論される筈であり、森教授の講演内容は「森克己著作集」に詳しいので参看されたい。

◇ 懇親会

夕五時から望嶽荘石川旅館で三十数名が出席して懇親会が開催された。村越委員の司会のもとに、森・宮崎両教授や青森大学長盛田稔氏を囲んで、近況報告や研究余譚が披露され、和やかな雰囲気にとどめられた。会場は藩政期の芝居小屋茂森座跡の向いにあり、芝居宿として知られているところである。随所にその名残りをとどめる会場は、その名の通り岩木山眺望の高崖上にあり、席上一頻り話題を提供してくれたことを付記する。  
(荒井記)

大会終了後、委員・監事が会長から委嘱され、本会の役員は次の通りとなった。

顧問 宮崎 道生(岡山大学)

会長 虎尾 俊哉(教育学部)

副会長 羽賀興七郎(元教養部)

藤野 道生(人文学部)

委員 荒井 清明(弘前中央高校) 安野 真幸(教養部)

石戸谷正司(弘前中央高校) 稲葉 克夫(浪岡高校)

大川 哲夫(木造高校) 工藤 守夫(弘前第三中学校)

里滝十二郎(弘前中央高校) 小館 衷三(弘前実業高校)

佐藤 仁(弘前南高校) 齋藤 春彦(付属中学校)

篠村 正雄(板柳高校) 千葉 良一(金木南中学校)

月足 正朗(付属中学校) 沼田 哲(人文学部)

村越 深(教育学部)

監事 蝦名 庸一(青森西高校) 橋本 正信(三戸高校)